

厚生労働科学研究費補助金（地域医療基盤開発推進研究事業）

「病床機能の分化・連携や病床の効率的利用等のために必要となる実施可能な施策に関する研究」

病院急性期指標（仮称）の作成方法と解釈上の注意点

2016年4月15日

研究分担者 野田 龍也（奈良県立医科大学 講師）

研究代表者 今村 知明（奈良県立医科大学 教授）

病院急性期指標（仮称）の作成方法

病床あたりの看護師数や病床あたりの総手術件数などにつき、都道府県内における各病院の位置づけを分かりやすく示し、各病院がセルフアセスメントを行う参考資料とすることを目的として、病院急性期指標（仮称）を作成した（「病院急性期指標」は仮称であり、以下、「急性期指標」と呼ぶ。）の作成にあたっては、2014年に行われた病床機能報告をもとに、「1. 項目選定」、「2. 項目の縮約」、「3. 病床規模の補正」、「4. スコアの標準化」、「5. 合算による急性期指標の作成」の5つの段階を経た。具体的な手順は以下の通りである：

1. 項目選定

医師及び看護師からなる数名の合議体を形成し、2014年度病床機能報告（411項目）を対象に、主たる診療分野が急性期である病院が満たしやすいと思われる217項目を選定した。たとえば、看護師数については、「その他の部門」に精神科の看護師が多く含まれていると考えられたため、「その他の部門」を対象から外し、看護師数に関する他の項目を対象に入れた。

2. 項目の縮約

選定された項目のうち、同種の項目について一つの項目へ縮約（＝集約）したものがあある。例えば、病床機能報告（およびその中から研究班で選定した急性期の性質が強い項目）には、CTに関する項目として「マルチスライスCT 64列以上」、「マルチスライスCT 16列以上64列未満」、「マルチスライスCT 16列未満」、「その他のCT」の4項目がある。この4項目は類似の項目であるため、医療機器に関するポイント算出方法（後述）に従って縮約し、最終的には「CT」という名称の一項目へ縮約を行う。このような縮約操作を看護師や薬剤師、CTなどの項目に対して行う。これにより、「1. 項目選定」で選定された217項目が70項目へ縮約された。縮約後の70項目を表に示す。

なお、研究班が行った具体的な縮約操作は以下の通りである：

看護師数に関する複数の項目については、精神科担当看護師が多く含まれると推定された項目を除いた 8 項目の数値を合算し、「看護師」という一つの項目へ縮約した。薬剤師についても精神科を担当する薬剤師が数に含まれていることが想定されるが、病院によっていずれの部門に計上しているかが異なるため、施設全体の常勤・非常勤別職員数を合算のうえ、精神科の病床数と精神科以外の病床数で按分し、精神科以外の薬剤師数を算出した。助産師、臨床工学技士については、精神科病棟に勤務する機会が少ないと考えられることから按分は行わず、施設全体の常勤・非常勤別職員数を合算したものを用いた。

新規入棟患者数、退棟患者数、分娩件数等については病棟ごとの患者数を合算した。休日に受診した患者延べ数、夜間に受診した患者延べ数等については施設全体の患者数を用いた。

医療機器については、項目を縮約した後、特定の機器を保有していれば台数に関わらず 1 ポイント、保有していなければ 0 ポイントとして機器種別ごとに算出した（例えば、縮約後の項目「CT」について取りうるポイントは、CT の機種・保有台数に関わらず 0 (CT なし) または 1 (何らかの CT を保有) の二値である）。以上の方式で種別ごとのポイント数を合算して病院のポイント数を算出した。

具体的な医療の内容に関する項目における各診療行為については、施設全体のレセプト件数に 12 を乗じたものを年間推計値として用いた。

3. 病床規模の補正

病床数による影響を補正するため、縮約された 70 項目それぞれについて、一般病床・療養病床の許可病床数の合算値で割り、病院ごとに病床規模を補正した「許可病床 1 床当たり」の数値を算出した。病床数の報告が 0 の病院については病床規模による補正ができないため、（病床数以外の項目で報告があった場合でも）すべての項目を欠損値として扱った（次の 4 の操作において、その項目の「スコア」が 0 となることになる）。

補正対象は、許可病床と稼働病床のいずれで行うべきか議論した結果、今回の急性期指標については許可病床で補正している。

4. スコアの標準化

病床規模で補正された各項目について、その項目の数値が「0」または欠損値である病院を一旦除外し、0 を超える数値が報告されている病院のみを対象に、その項目の平均値と標準偏差を算出した。次に、その項目の平均が 50、標準偏差が 10 となるように病院ごとの項目スコアを算出した（つまり、各病院の報告数値を全国における偏差値へ変換した）。

次に、その項目の値が「0」または欠損値であった病院については、スコアを「0」とした。

5. 合算による急性期指標の作成

各項目のスコアを病院単位で合算し、各病院の急性期指標とした。なお、見やすさのため、合算したスコアを 50 で割る操作を行った。

急性期指標の作成過程を図に示した。

病院急性期指標：解釈上の注意点

病床機能における「急性期」の普遍的、定量的な定義は存在しない。しかしながら、議論の参考資料として、病床機能区分に沿った何らかの指標があることが好ましく、本急性期指標はその目的のために作成された。

本指標の前提となる病床機能報告は、病棟単位の情報と病院単位の情報が入り混じっているため、本指標は病棟単位の議論には用いることができず、「その病院全体が、同一都道府県内の他の病院と比較してどれほど“急性期的”であるか（急性期医療を主体としているか）」を見える化するものである。

指標を構成する項目は、病院機能報告の項目の中から、急性期を主体とする病院で値が大きくなると思われる項目を、奈良県立医科大学の医療専門職3名が選定した。そのため、指標の取捨選択はさらに精緻化する余地があり、自治体の担当者や研究者は、項目の選定や重みづけ、標準化の方法に工夫を加えることで、より洗練された急性期指標を作ることが可能である。

一方、項目を一部入れ替えたり、過大な外れ値を入力したり、重みづけを一部に施したりするなどのストレステストにおいても、急性期指標の全体的な傾向は大きく変わらなかったため、病院の急性期傾向をみる指標としては、一定の使用に耐えるものと考えられる。

今回使用した2014年度病院機能報告はデータクリーニングが終わっていない初期段階のデータであり、過大または過小な数値が散見される。奈良県の病床機能報告を対象とした精査から、報告された数値の5%程度は正しくない数値が入力されていると想定される。本指標が一定の誤りを含むことに留意する必要がある。ただし、都道府県単位で見た場合、誤入力の影響が目立つのは東京都であり、他の道府県については、（誤入力によるスコアの歪みは同程度存在するものの）病院数がさほど多くないため、影響が目立つほどではない。

本指標を利用する際の解釈上の注意点は以下の通りである。

- 病床あたりのスタッフ数や急性期的な医療行為の件数などにつき、同一都道府県内における各病院の位置づけを、点数を用いて示し、各病院がセルフアセスメントを行う参考資料である。
- 前述の点数は、「看護師数」や「総手術件数」などの小項目ごとに、自院が同一都道府県内の他の病院に比べ、どれくらい急性期を主体とした医療を行っているかの相対的な傾向を示している（医療機器については、各機器の点数ではなく、保有機器全体を考慮した「項目スコア」を参照のこと）。
- 各小項目の標準的な点数は1.0である。例えば、ある病院における看護師数の点数が1.0である場合は、その病院の病床あたりの看護師数とその都道府県において平均的であることを示している。また、病院機能報告で報告がなかった項目は0.0点となっている（許可病床数の報告がなかった場合を含む）。
- 小項目をカテゴリー別に合計した「小計」や「項目スコア」、さらにそれらを合算した「急性期指標」を合わせて示している。小項目の合計点数の解釈には議論があるため、小計や

急性期指標については「標準的な点数」は設定していない。

- この指標は、病院全体に「急性期」「回復期」といった単一の機能を割り当てるものではない。ほとんどの病院では複数の機能が並存している。
- 急性期指標に特定の閾値を設定することはできない。つまり、特定の点数で切って、それ以上の病院を高度急性期、それ未満を急性期・・・といった切り分けを行うことは想定しておらず、また行うべきでもない。あくまで、傾向を示すものである。
- 病院単位の傾向を示すものであり、病棟単位の議論には用いることができない。急性期病棟の割合で割り戻す等の操作を行っても結果が極端に歪むことが分かっている。
- 病院の何らかの順位を表すものではなく、その目的として利用することもできない。適切な病床機能のあり方を議論するツールの一つである。
- 項目の選定は急性期医療のみを念頭に行われたため、指標を逆転しても、その病院がどれくらい「慢性期」的であるかを示すためには用いることができない。つまり、小さいスコア順に並べて慢性期指標とすることはできない。
- 2014年度調査の結果であり、結果は毎年変動する。
- 誤記入を除外しきれっていないため、結果には一定の誤差を含む。
- ケアミックスの病院では、急性期医療と慢性期医療を兼担しているため、病院の実態より低めのスコアが出ることが分かっている。
- （奈良県では対象病院はないが）特定傷病（循環器疾患や小児疾患、内分泌疾患など）に高度に特化した病院や国立高度専門医療研究センター（ナショナルセンター）では、病院の実態とスコアが乖離しやすい。

さらに、本指標は、「急性期医療を主体とする病院であれば満たすであろう」項目を多数選定して作成されており、多重共線性の問題について議論を尽くす必要がある。現在の手法は、少数項目を恣意的に満たすような行動に対して頑健であるため、項目を絞るべきか否かは一概には言いづらいが、今後の重要な検討課題である。

以上

表 1 縮約後の項目

◆ 対象となる項目の選定

急性期指標を構成する項目（縮約後）70 項目

【構造設備・人員配置等に関する項目】

● 4. スタッフの配置：4 項目

- ・看護師
- ・助産師
- ・薬剤師
- ・臨床工学士

● 5. 入院患者・救急医療の状況：6 項目

- ・新規入院患者数
- ・うち救急の予定外入院
- ・退棟患者
- ・休日に受診した患者延べ数
- ・夜間に受診した患者延べ数
- ・救急車の受入件数

● 6. 医療機器：7 項目

CT、MRI、血管連続撮影装置、SPECT、PET/PETCT、強度変調放射線治療器、遠隔操作式密封小線源治療装置、大動脈バルーンパンピング法、補助人工心臓

【具体的な医療の内容に関する項目】

● 8. 総合入院体制加算 1、2 にかかる施設基準：3 項目

- ・全身麻酔による手術件数
- ・腹腔鏡下手術
- ・分娩件数

● 9. 手術件数：4 項目

- ・総手術件数
- ・胸腔鏡下手術
- ・脳外科的手術
- ・経皮的冠動脈形成術

● 10. がん・脳卒中・心筋梗塞等への治療状況：9 項目

- ・悪性腫瘍手術
- ・病理組織標本作製
- ・術中迅速病理組織標本作製
- ・放射線治療（体外照射法）
- ・化学療法
- ・がん患者指導管理料 1 及び 2
- ・抗悪性腫瘍剤局所持続注入
- ・肝動脈塞栓を伴う抗悪性腫瘍剤肝動脈内注入
- ・超急性期脳卒中加算

● 11. 入院基本料の算定/年間推計：11 項目

- ・ 特定機能病院入院基本料
- ・ 救命救急入院料
- ・ 特定集中治療室管理料
- ・ ハイケアユニット入院医療管理料
- ・ 脳卒中ケアユニット入院医療管理料
- ・ 小児特定集中治療室管理料
- ・ 新生児特定集中治療室管理料
- ・ 総合周産期特定集中治療室管理料
- ・ 新生児治療回復室入院医療管理料
- ・ 小児入院医療管理料
- ・ 短期滞在手術等基本料

● **12. 救急医療の実施・重症患者への対応/年間推計：20 項目**

- ・ ハイリスク分娩管理加算
- ・ ハイリスク妊産婦共同管理料（Ⅱ）
- ・ 観血的肺動脈圧測定
- ・ 大動脈バルーンパンピング法
- ・ 経皮的心肺補助法（PCPS）
- ・ 補助人工心臓・植込型補助人工心臓
- ・ 頭蓋内圧持続測定（3 時間を超えた場合）
- ・ 人工心肺
- ・ 人工透析（持続緩徐式血液濾過、血漿交換療法、吸着式血液浄化法、血球成分除去療法、人工腎臓、腹膜灌流）
- ・ 院内トリアージ実施料
- ・ 夜間休日救急搬送医学管理料
- ・ 救急医療管理加算 1 及び 2
- ・ 救命のための気管内挿管
- ・ 非開胸的心マッサージ
- ・ カウンターショック
- ・ 中心静脈注射
- ・ 呼吸心拍監視
- ・ 観血的動脈圧測定（1 時間を越えた場合）
- ・ ドレーン法、胸腔若しくは腹腔洗浄
- ・ 人工呼吸（5 時間を超えた場合）

● **15. 疾患に応じたリハビリテーション・早期からのリハビリテーションの実施状況：6 項目**

- ・ 心大血管疾患リハビリテーション料
- ・ 脳血管疾患等リハビリテーション料
- ・ 運動器リハビリテーション料
- ・ 呼吸器リハビリテーション料
- ・ がん患者リハビリテーション料
- ・ 早期リハビリテーション加算

(参考) 急性期指標として不適またはデータ不備により構成指標に採用しなかった項目

※ 病院機能報告にない奈良医大独自の検討項目を含む。

● 4. スタッフの配置

医師、准看護師、看護補助者、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士

● 6. 医療機器：7項目

大動脈バルーンポンピング、補助人工心臓

● 5. 入院患者・救急医療の状況

在棟患者延べ数、予定入院の患者・院内他病棟からの転棟患者、救急以外の予定外入院

● 7. 院内保有設備

手術室、リハビリ室、ER、ICU、CCU、HCU、SCU、NICU、GCU、MFICU、熱傷ベッド、産婦人科病床、精神科病床

● 8. 総合入院体制加算1、2にかかる施設基準

人工心肺を用いた手術、第三次救急（24時間体制救急実施）、第二次救急（24時間体制救急実施）、救急告示、精神科病床有り/24時間対応、地域包括ケア病棟

● 11. 入院基本料の算定/年間推計

一般病棟7対1入院基本料、一般病棟10対1入院基本料、一般病棟13対1入院基本料、一般病棟15対1入院基本料、一般病棟特別入院基本料、一般病棟特定入院基本料、療養病棟入院基本料1・2・特別基本料、難病等特別入院診療加算、障害者施設等入院基本料、特殊疾患病棟入院料、回復期リハビリテーション病棟入院料、亜急性期入院医療管理料、地域包括ケア病棟入院料・医療管理料、緩和ケア病棟入院料

● 13. 疾患に応じたリハビリテーション・早期からのリハビリテーションの実施状況

障害児（者）リハビリテーション料、難病患者リハビリテーション料

図1 急性期指標の作成

●病院プロファイリング

病床機能報告・個票データや病院機能に関する他の県庁保有情報、医療関係者等からのヒアリングを、「一病院一行(数行以内)」の形式に統合し、デルファイ法により各病院(病棟)の病床機能分類を行う試み。

1

●急性期指標の作成

医師、看護師の合議体で指標を選抜。具体的には、病床機能報告の411項目から、主たる診療分野が急性期であるような病院が満たしそうな217項目を選び、平均値や分散を標準化して、全項目の合計値を算出。

2

急性期指標に近い項目

●レセプトから

入院基本料(一般病棟入院基本料等)、特定入院料(特定機能病院入院基本料・救命救急入院料等)、有床診療所入院基本料など

手術総数、全身麻酔の手術総数、胸腔・腹腔鏡下手術、内視鏡手術用支援機器加算、放射線治療など

がん・脳卒中・心筋梗塞等への治療状況、重症患者への対応状況(持続緩徐式血液濾過、大動脈バルーンパンピング法、頭蓋内圧持続測定、人工心肺、血漿交換療法など)

救急医療の実施状況(院内トリアージ実施料、休日夜間救急搬送医学管理料、救急医療管理加算など)

急性期後の支援・在宅復帰への支援の状況

全身管理の状況(呼吸心拍監視、酸素吸入、ドレーン法、人工呼吸、経管栄養カテーテル交換法など)

リハビリテーションの実施状況(疾患別リハビリテーション料、早期リハビリテーション加算など)

長期療養患者の受入状況、重度の障害児等の受入状況

スタッフ数(医師、看護師、准看護師、看護補助者、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、薬剤師、臨床工学士の常勤・非常勤)

●個票データから

病床数(一般病棟・療養病棟、病床機能4区分、総病床数・稼働率、診療科)、入院患者数の状況(新規入棟患者数、在棟患者延べ数など)

入棟前の場所・退棟先の場所別の入院患者の状況等、一般病棟用の重症度、医療・看護必要度を満たす患者の割合

救急医療の実施状況(休日に受診した患者延べ数、夜間に受診した患者延べ数、救急車の受入件数)、医療機器の台数(CT、MRIなど)

退院調整部門の設置状況

217項目(下線)を使用

5

項目の縮約(例:CT)



CTについての項目・・・4項目(病床機能報告)

→「急性期指標に近い項目」として選定(前スライド)

→4項目を合算して1項目へ → 「CT」という急性期指標項目としては1項目へ縮約して使用

6

急性期指標に投入した縮約項目

下記の70項目（縮約前は217項目）

看護師、助産師、薬剤師、臨床工学士

新規入院患者数・うち救急の予定外入院、退棟患者、休日に受診した患者延べ数、夜間に受診した患者延べ数、救急車の受入件数

医療機器（CT、MRI、血管連続撮影装置、SPECT、PET/PETCT、強度変調放射線治療器、遠隔操作式密封小線源治療装置）

全身麻酔による手術件数、人工心肺を用いた手術、腹腔鏡下手術、分娩件数

総手術件数、胸腔鏡下手術、脳外科的手術、心臓カテーテル、悪性腫瘍手術

病理組織標本作製、術中迅速病理組織標本作製、放射線治療、化学療法、がん患者指導管理料、抗悪性腫瘍剤局所持続注入、肝動脈塞栓を伴う抗悪性腫瘍剤肝動脈内注入、超急性期脳卒中加算

特定機能病院、救命救急入院料、特定集中治療室管理料、ハイケアユニット入院医療管理料、脳卒中ケアユニット入院医療管理料、小児特定集中治療室管理料、新生児特定集中治療室管理料、新生児治療回復室入院医療管理料、小児入院医療管理料、総合周産期特定集中治療室管理料、短期滞在手術等基本料

人工心肺、大動脈バルーンパンピング法、大動脈バルーンパンピング法、経皮的心肺補助法(PCPS)、人工透析、夜間休日救急搬送医学管理料、救急医療管理加算、救命のための気管内挿管、非開胸的心マッサージ、カウンターショック、中心静脈注射、呼吸心拍監視、観血的動脈圧測定、ドレーン法、胸腔若しくは腹腔洗浄、人工呼吸(5時間を超えた場合)、ハイリスク分娩管理加算、ハイリスク妊産婦共同管理料、観血的動脈圧測定、補助人工心臓・植込型補助人工心臓、頭蓋内圧持続測定、院内トリアージ実施料

心大血管疾患、脳血管疾患等、運動器、呼吸器、がん患者、早期リハビリテーション加算

7

1. 病床数

●病棟毎の病床数

個々の病院ごとに、「一般・療養病床」のどちらか、「総病床数・稼働病床数」、「機能区分別」、「病床種別」を整理する。

(2014年奈良県病床機能報告 個票データ使用)

1. 医療圏	2. 病院名	3. ID (通知記載7桁コード)	4. 病棟		5. 病院が申請した機能区分				6. 病床種別	
			病棟名	病床数	高度急性期	急性期	回復期	慢性期		
1. 奈良	一般財団法人京井病院	220011	一般療養	55	55	0	0	0	0	内科、外科、整形外科、整形外科
1. 奈良	一般財団法人京井病院	220011	療養病床	56	56	0	0	0	0	56 内科、外科、整形外科、整形外科
2. 奈良	独立行政法人国立病院機構 奈良中央病院	120082	3A病棟	50	50	0	0	0	0	脳神経外科
2. 奈良	独立行政法人国立病院機構 奈良中央病院	120082	南病棟	25	25	0	0	25	0	内科
2. 奈良	独立行政法人国立病院機構 奈良中央病院	120082	1A病棟	50	50	0	0	0	0	50 内科、小児科
2. 奈良	独立行政法人国立病院機構 奈良中央病院	120082	1B病棟	50	50	0	0	0	0	50 内科、小児科
2. 奈良	独立行政法人国立病院機構 奈良中央病院	120082	2A病棟	50	50	0	0	0	0	50 神経内科、内科、脳神経外科
2. 奈良	独立行政法人国立病院機構 奈良中央病院	120082	2B病棟	50	50	0	0	0	0	50 神経内科、内科、脳神経外科
3. 奈良	奈良医療センター	120005	南館2階病棟	45	45	0	0	0	0	50 小児科、神経内科、脳神経外科、内科
3. 奈良	医療法人新仁会 奈良春日病院	80005	南館3階病棟	50	50	0	0	0	0	
3. 奈良	医療法人新仁会 奈良春日病院	80005	東館2階病棟	44	44	0	0	0	0	
3. 奈良	医療法人新仁会 奈良春日病院	80005	東館3階病棟	26	26	0	0	0	0	
3. 奈良	医療法人新仁会 奈良春日病院	80005	本館3階病棟	54	54	0	0	0	0	
3. 奈良	医療法人新仁会 奈良春日病院	80005	本館4階病棟	59	59	0	0	0	0	
3. 奈良	医療法人新仁会 奈良春日病院	80005	本館5階病棟	58	58	0	0	0	0	
4. 奈良	医療法人社団石洲会 石洲会病院	129131	1病棟	93	93	0	0	0	0	外科
5. 奈良	医療法人宝山会 奈良小南病院			60	60	0	0	0	0	内科、外科
5. 奈良	医療法人宝山会 奈良小南病院			26	26	0	0	0	0	リハビリ科
5. 奈良	医療法人宝山会 奈良小南病院			44	44	0	0	0	0	リハビリ科
5. 奈良	医療法人宝山会 奈良小南病院			45	45	0	0	0	0	内科、外科
5. 奈良	医療法人宝山会 奈良小南病院			23	23	0	0	0	0	外科
6. 奈良	地方独立行政法人奈良県立病院機構 奈良県総合医療センター			31	31	0	0	0	0	内科、外科
6. 奈良	地方独立行政法人奈良県立病院機構 奈良県総合医療センター			50	50	0	0	0	0	外科
6. 奈良	地方独立行政法人奈良県立病院機構 奈良県総合医療センター			60	60	0	0	0	0	内科、外科

8

3. スタッフの配置(2)

医師(平均値0.13)	看護師(平均値0.43)	助産師(平均値0.07)	薬剤師(平均値0.03)	臨床工学士(平均値0.02)	小計	准看護師(平均値0.11)	看護補助者(平均値0.23)	理学療法士(平均値0.08)	作業療法士(平均値0.06)	言語聴覚士(平均値0.02)
0.62	0.48	0	1.00	0	2.10	0.73	0.83	1.75	0.33	0
0.69	1.68	0	1.00	0.50	3.87	0.76	0.04	0.50	0.17	0.50
0.31	0.42	0	0.67	0	1.39	0.82	0.39	0.25		
0.38	0.47	0	0.67	0	1.51	0.73	0.35	0		
0.23	0.53	0	0	0	0.76	1.09	0.52	0.25		
2.31	1.92	1.00	1.67	1.00	7.89	0.27	0.13	0.13		
0.77	0.77	0	0.67	0	2.21	1.64	0.78	1.50		
0.31	0.68	0	0.67	0	1.83	0.09	0.04	5.38		
0.92	1.40	0	0.67	3.00	5.99	1.06	0.52	1.13		
1.46	1.96	0	3.00	3.50	9.92	1.27	0.61	1.13		
2.54	1.77	0.71	2.33	1.00	8.35	0.09	0.04	0.50		
0.77	0.60	0	1.67	1.00	4.03	1.09	0.52	0.63		
1.00	1.34	0	0.67	1.00	4.01	1.09	0.52	2.38		
1.00	1.17	0	1.33	0	3.51	1.82	0.87	0.38		
1.54	1.44	0	2.00	2.00	6.98	0.64	0.30	1.50		
0.54	0.64	0	0.33	0	1.51	0.06	0.04	0.50	0.50	0.50

【評価対象より除外】

- ・准看護師や補助看護師は回復期・慢性期病院の方に人数が多くなる傾向あり。
- ・理学療法士、作業療法士、言語聴覚士も急性期のリハビリとして重要な存在ではあるが、慢性期や回復期にも多く配置がある。

看護師は、「その他の看護師数」に精神科病棟の看護師数が含まれているため、「その他」を除いた常勤・非常勤の「病棟」「外来」「手術室」の合計人数を入力。

薬剤師にも精神科の人数が含まれている。

病院によって精神科の薬剤師の報告項目が違うため、下記計算方法で薬剤師数を算出。

- ・薬剤師の総人数 ÷ 精神科も含む病床数 × 精神科以外の病床数 = 薬剤師数

助産師、臨床工学士は「病棟」「外来」「手術室」「その他」すべての人数を入力。

3. スタッフの配置(ポイント算出方法)

医師(平均値0.13)	看護師(平均値0.43)	助産師(平均値0.07)	薬剤師(平均値0.03)	臨床工学士(平均値0.02)	小計	准看護師(平均値0.11)	看護補助者(平均値0.23)	理学療法士(平均値0.08)	作業療法士(平均値0.06)	言語聴覚士(平均値0.02)
0.62	0.48	0	1.00	0	2.10	0.73	0.83	1.75	0.33	0
0.69	1.68	0	1.00	0.50	3.87	0.76	0.04	0.50	0.17	0.50
0.31	0.42	0	0.67	0	1.39	0.82	0.39	0.25		
0.38	0.47	0	0.67	0	1.51	0.73	0.35	0		
0.23	0.53	0	0	0	0.76	1.09	0.52	0.25		
2.31	1.92	1.00	1.67	1.00	7.89	0.27	0.13	0.13		
0.77	0.77	0	0.67	0	2.21	1.64	0.78	1.50		
0.31	0.68	0	0.67	0	1.83	0.09	0.04	5.38		
0.92	1.40	0	0.67	3.00	5.99	1.06	0.52	1.13		
1.46	1.96	0	3.00	3.50	9.92	1.27	0.61	1.13		
2.54	1.77	0.71	2.33	1.00	8.35	0.09	0.04	0.50		
0.77	0.60	0	1.67	1.00	4.03	1.09	0.52	0.63		
1.00	1.34	0	0.67	1.00	4.01	1.09	0.52	2.38		
1.00	1.17	0	1.33	0	3.51	1.82	0.87	0.38		
1.54	1.44	0	2.00	2.00	6.98	0.64	0.30	1.50		
0.54	0.64	0	0.33	0	1.51	0.06	0.04	0.50	0.50	0.50
0.69	0.63	0	0.67	0	1.99					
0.92	1.07	0	1.00	1.00	3.99	0.55	0.26	1.13	0.33	0.50

【看護師】

- ①(その他の看護師数は除いた常勤・非常勤合計) ÷ 総病床数=A
- ②Aが0または欠損値以外の病院数で偏差値化
- ③Aが0または欠損値の病院の偏差値を0とする

【医師・助産師・臨床工学士】

- ①すべての所属の常勤・非常勤合計 ÷ 総病床数=A
- ②Aが0または欠損値以外の病院数で偏差値化
- ③Aが0または欠損値の病院の偏差値を0とする

【薬剤師】

- ①すべての所属の常勤・非常勤合計=A(病院全体の薬剤師数)
- ②A ÷ (精神科病床数 + 一般病床数) × 一般病床数=B(一般病床に割当てた薬剤師数)
- ③B ÷ 総病床数=C
- ④Cが0または欠損値以外の病院数で偏差値化
- ⑤Cが0または欠損値の病院の偏差値を0とする

4. 入院患者・救急医療の状況

(2014年奈良県病床機能報告 個票データ使用)

5. 入院患者・救急医療の状況									
新規入院患者数(平均値10.70)	うち救急の予定外入院(平均値3.79)	退棟患者(平均値10.28)	休日に受診した患者延べ数(平均値5.11)	夜間に受診した患者延べ数(平均値9.30)	救急車の受入件数(平均値4.21)	小計	新規入院患者 予定入院の患者・院内他病棟からの転棟患者(平均値6.09)	救急以外の予定外入院(平均値2.36)	在棟患者延べ数(平均値257.98)
0.82	1.45	0.86	1.37	0.73	1.78	7.01	0	0	0
0.39	0.24	0.40	0.12	0.05	0.32	1.52	0	0	0
0.22	0.02	0.22	0.04	0.03	0.02	0.55	0	0	0
0.59	1.61	0.61	3.31	1.70	3.25	11.07	0	0	0
0.40	0.66	0.41	0.11	0.27	0.73	2.58	0	0	0
2.01	2.63	0.21	1.14	1.13	0.81	7.83	1	0	0
0.76	0.37	0.79	1.61	0.25	0.89	4.67	0	0	0
0.05	0	0.003	0	0	0	0.05	0	0	0
1.47	0.07	1.37	0.43	0.30	0.48	4.12	1	0	0
0.79	0.54	1.86	0.81	1.33	1.52	6.85	1	0	0
1.92	1.86	1.99	1.05	1.36	2.35	10.53	2	0	0
0.61	1.46	0.64	0.46	0.36	0.66	4.19	0	0	0
1.12	1.46	1.10	0.68	0.75	0.55	5.67	1	0	0
0.93	1.28	0.94	1.06	0.77	1.10	6.10	0.57	0.69	1.21
1.53	1.55	1.58	1.37	1.10	0.91	8.04	1.47	0.62	1.15
0.01									
1.93									
0.49									
1.66									

【算出方法】

- ① 報告数 ÷ 総病床数 = A
- ② Aが0または欠損値以外の病院数で偏差値化
- ③ Aが0または欠損値の病院の偏差値を0とする

新規入院患者数(平均値10.70)	うち救急の予定外入院(平均値3.79)	退棟患者(平均値10.28)	休日に受診した患者延べ数(平均値5.11)	夜間に受診した患者延べ数(平均値9.30)	救急車の受入件数(平均値4.21)	小計	新規入院患者 予定入院の患者・院内他病棟からの転棟患者(平均値6.09)	救急以外の予定外入院(平均値2.36)	在棟患者延べ数(平均値257.98)
10.70	3.79	10.28	5.11	9.30	4.21	32.69	6.09	2.36	257.98

13

5. 医療機器、保有設備

(2014年奈良県病床機能報告 個票データ使用)

6. 医療機器ポイント (2014年病院機能報告 個票データより) ※台数に関わらず医療機器を設置・保有していれば1とする													7. 院内保有設備ポイント (2014年病院機能報告 個票データとHPより) ※ベッド数に関わらず設備保有し機能していれば1とする														
CT	MRI	血管連続撮影装置	SPECT	PET/PETCT	PETMRI	強度変調放射線治療装置	遠隔操作式密封小線源治療装置	大動脈バルーンポンピング法	補助人工心臓	中間計算(資料⑤再掲)	合計=中間計算値÷平均値(2.61)	手術室	リハビリ室	ER	ICU	CCU	HCU	SCU	NICU	GCU	MFICU	熱傷ベッド	産婦人科病床	精神科病床	中間計算(資料⑤再掲)	合計=中間計算値÷平均値(2.40)	地域包括ケア病床
1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0.77	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0.42
1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0.77	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0.83
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0.83
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0.42
0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	2.50
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0.42
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	1.25
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0.83

14

5. 医療機器、保有設備(算出方法)

6. 医療機器ポイント (2014年病院機能報告 個票データより) ※台数に関わらず医療機器を設置・保有していれば1とする													7. 院内保有設備ポイント(2014年病院機能報告 個票データとHPより) ※ベッド数に関わらず設備保有し機能していれば1とする															
CT	MRI	血管造影装置	SPECT	PET/PETCT	PETMRI	強度変調放射線治療器	遠隔操作式体外照射装置	大動脈バルーンポンプ	補助人工心臓	中間計量(5再掲)	合計=中間計量(再掲)÷平均値(2.81)	手術室	リハビリ室	ER	ICU	CCU	HCU	SCU	NICU	GCU	MFCU	熱傷ベッド	産婦人科病床	精神科病床	中間計量(資料⑤再掲)	合計=中間計量(再掲)÷平均値(2.40)	地域包括ケア病床	
1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0.77	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0.42	
1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0.77	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0.83	
1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0.38	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0.83	
1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	3	1.15	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0.83	
1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0.38	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0.42	
1	1	1	1	0	0	0	0	1	0	5	1.92	1	1	1	0	0	1	0	1	0	0	0	1	0	0	6	2.50	
1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0.38	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0.42		
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0.42	
1	1	1	0	1	0	0	0	1	0	5	1.92	1	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	3	1.25	○50床	
1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0.77	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0.83		

- 保有台数に関わらず保有して医療機器の役割を果たせる状態であれば各①種類毎に1をカウント・・・A
 ②Aの9項目のポイントを合計・・・B
 ③Bが0または欠損値以外の病院数で偏差値化
 ④Bが0または欠損値の病院の偏差値を0とする

15

6. 総合入院体制加算1、2にかかる施設基準

(2014年奈良県病床機能報告 個票データ、奈良県ホームページ使用)

【分娩件数のみ】県庁より「県内医療機関別分別取扱い件数」平成26年度年間データ使用

8. 総合入院体制加算1、2にかかる施設基準												
(病床機能報告集計/奈良県2014/ローデータより)							県HPより					
全身麻酔による手術件数(平均値 2.36)	人工心肺を用いた手術(平均値 0.18)	悪性腫瘍手術	腹腔鏡下手術(平均値 0.49)	放射線治療(体外照射法)(平均値 3.01)	化学療法	分娩件数(県庁年間データより)(平均値 12.40)	合計	第三次救急(24時間体制救急実施)	第二次救急(24時間体制救急実施)	救急告示	精神科病床有り/24時間対応	
0	0	0	0	0	0	0	0	×	○	○	○	
0.30	0	9	0.36	0.19	1	0	0.85	×	×	×	×	
0	0	0	0.28	0	0	0	0.11	×	×	×	×	
0.11	0	0	0	0	0	0	0	×	×	×	×	
0	0	0	0	0	0	0	0	×	×	×	×	
1.88	0	0	1.13	2.06	ん	1.29	6.36	×	×	×	×	
0.99	0	0	0	0	0	0	0.99	×	×	×	×	
0	0	0	0	0	0	0	0	×	×	×	×	
1.42	0	0	0.55	0	0	0	2.01	×	×	×	×	
2.14	0	0	1.92	0	0	0	3.46	×	×	×	×	
1.80	0	0	1.88	0.74	0	0	1.41	5.83	×	×	×	

総合入院体制加算は総合的かつ専門的な急性期医療を24時間提供できる体制等を持つ病院を評価するもの。

【ポイント算出方法】

- ①レセプト報告数×12か月=A(年間推計)
- ②A÷総病床数=B
- ③Bが0または欠損値以外の病院数で偏差値化
- ④Bが0または欠損値の病院の偏差値を0とする

(病床機能報告集計/奈良県2014/ローデータより)							県HPより					
全身麻酔による手術件数(平均値 2.36)	人工心肺を用いた手術(平均値 0.18)	悪性腫瘍手術	腹腔鏡下手術(平均値 0.49)	放射線治療(体外照射法)(平均値 3.01)	化学療法	分娩件数(県庁年間データより)(平均値 12.40)	合計	第三次救急(24時間体制救急実施)	第二次救急(24時間体制救急実施)	救急告示	精神科病床有り/24時間対応	
0	0	0	0	0	0	0	0	×	○	○	○	
0.30	0	9	0.36	0.19	1	0	0.85	×	×	×	×	
0	0	0	0.28	0	0	0	0.11	×	×	×	×	
0.11	0	0	0	0	0	0	0	×	×	×	×	
0	0	0	0	0	0	0	0	×	×	×	×	
1.88	0	0	1.13	2.06	ん	1.29	6.36	×	×	×	×	
0.99	0	0	0	0	0	0	0.99	×	×	×	×	
0	0	0	0	0	0	0	0	×	×	×	×	
1.42	0	0	0.55	0	0	0	2.01	×	×	×	×	
2.14	0	0	1.92	0	0	0	3.46	×	×	×	×	
1.80	0	0	1.88	0.74	0	0	1.41	5.83	×	×	×	

【分娩件数】

- ①平成26年度年間データ÷総病床数=A
- ②全病院のAの合計÷Aが0以外の病院数=B(平均値)
- ③A÷B=ポイント

16

7. 手術件数(1)

- 年間データがないため、2014年6月診療分データに12を乗じた数字を年間推計値として算出。
(2014年度奈良県病床機能報告 レセプト基本項目使用)

serial	1. 医療圏	2. 医療機関ID(英数字7桁コード)	3. 病院名	4. 総手術件数		5. 胸腔鏡下手術			
				平成26年6月診療分	×12ヶ月(年間推計値)	平成26年6月診療分	×12ヶ月(年間推計値)	K145 穿頭脳室ドレナージ術	K146 頭蓋開溝術
1	奈良	1290811	一般財団法人沢井病院	18	216	0	0	0	0
2	奈良	1290892	独立行政法人国立病院機構 奈良医療センター	21	252	0	0	0	0
3	奈良	1290905	医療法人新仁会 奈良寺日病	2	24	0	0	0	0
4	奈良	129113	医療法人新仁会 五洲会 奈良小南病	2	24	0	0	0	0
5	奈良	129118	医療法人新仁会 奈良小南病	2	24	0	0	0	0
6	奈良	129142	医療法人新仁会 奈良小南病	2	24	0	0	0	0
7	奈良	532	博愛会松宮病院	17	204	0	0	0	0
8	奈良	1292950	医療法人社団生和会 登美ヶ丘リハビリテーション病院	0	0	0	0	0	0
9	奈良	1293846	医療法人康仁	137	1644	0	0	0	0
10	奈良	1294258	社会医療法人 中央病院	110	1320	0	0	0	0
11	奈良	1294464	市立奈良病院	480	5760	0	0	0	0
12	奈良	1294681	奈良東九条病院	9	108	0	0	0	0
13	奈良	1295624	医療法人岡谷会 本町に病院	6	72	0	0	0	0
14	奈良	1296661	奈良西部病院	0	0	0	0	0	0

レセプトデータは「レセプト算定日数」で算出しているが、ないものについては「レセプト件数」を算出し、さらにはないものは「レセプト算定回数」で算出。

7. 手術件数(2)開頭術

- 年間データがないため、2014年6月診療分データに12を乗じた数字を年間推計値として算出。(県庁よりデータ入手)

第3款 神経系・頭蓋		6.脳神経外科手術集	
K145	穿頭脳室ドレナージ術	K156	延髄における脊髄視床路切截術
K146	穿頭脳室ドレナージ術	K157	三叉神経節後線維切截術
K147	穿頭術(トレパナチオン)	K158	視神経管開放術
K148	試験開頭術	K160	脳神経手術(開頭して行うもの)
K149	減圧開頭術	K160-2	頭蓋内微小血管減圧術
K150	脳腫瘍摘出術	K161	頭蓋骨腫瘍摘出術
K151-2	広範囲頭蓋底腫瘍切截・再	K162	頭皮、頭蓋骨悪性腫瘍手術
K152	耳性頭蓋内合併症手術	K163	頭蓋骨膜下血腫摘出術
K152-2	耳科的硬膜外膿瘍切開術	K164	頭蓋内血腫除去術(開頭し
K153	鼻性頭蓋内合併症手術	K164-2	慢性硬膜下血腫穿孔洗浄術
K154	機能的定位脳手術	K164-3	脳血管塞栓(血栓)摘出術
K155	脳切截術(開頭して行うもの)	K164-4	定位的脳内血腫除去術
K165	脳内異物摘出術	K166	脳腫瘍全摘術
K166	脳腫瘍全摘術	K167	頭蓋内腫瘍摘出術
K167	頭蓋内腫瘍摘出術	K168	脳切除術
K168	脳切除術	K169	頭蓋内腫瘍摘出術
K169	頭蓋内腫瘍摘出術	K172	脳動脈奇形摘出術
K170	脳動脈奇形摘出術	K173	脳・脳膜脱手術
K171	脳・脳膜脱手術	K174	水頭症手術
K172	脳動脈奇形摘出術	K174-2	髄液シャント抜去術
K173	脳・脳膜脱手術	K175	脳動脈瘤被包術
K174	水頭症手術	K176	脳動脈瘤流入血管クリッピング(開頭して行うもの)
K174-2	髄液シャント抜去術	K178	脳血管内手術

7. 手術件数(3)心臓カテーテル

- 年間データがないため、2014年6月診療分データに12を乗じた数字を年間推計値として算出。(県庁よりデータ入手)

7. 循環器内科心カテ・循環器の重症者治療法集計(2014年6月診療分・算定日数より)

K546	K547	K548	K549	K550-2	K550	595	K615	K620	D206	D206	E003	E003	K600	K602	L008-2	合計	合計×12ヶ月(年間推計値)
経皮的冠動脈形成術	経皮的冠動脈粥状切離術	経皮的冠動脈形成	経皮的冠動脈ステント留置	経皮的冠動脈血栓吸引術	経皮的冠動脈内中隔血管形成術	経皮的冠動脈中隔血管形成術	血管塞栓術	下大静脈フィルター留置	心臓カテーテル法(右心カテ)	心臓カテーテル法(左心カテ)	動脈造影カテ法(分枝血管選択的撮影)	動脈造影カテ法(その他)	大動脈バルーンパンピング(人数)	経皮的肺補助法(人数)	低体温療法(人数)		
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
1	0	0	11	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6	0	0	15	0	0	0	0	6	1	0	0	0	0	0	0	0	0

7. 循環器内科心カテ・循環器の重症者治療法集計

K546	経皮的冠動脈形成術
K547	経皮的冠動脈粥状切離術
K548	経皮的冠動脈形成
K549	経皮的冠動脈ステント留置
K550-2	経皮的冠動脈血栓吸引術
K550	経皮的冠動脈内中隔血管形成術
K595	経皮的冠動脈中隔血管形成術
K615	血管塞栓術
K620	下大静脈フィルター留置
D206	心臓カテーテル法(右心カテ)
D206	心臓カテーテル法(左心カテ)
E003	動脈造影カテ法(分枝血管選択的撮影)
E003	動脈造影カテ法(その他)
K600	大動脈バルーンパンピング(人数)
K602	経皮的肺補助法(人数)
L008-2	低体温療法(人数)

19

7. 手術件数(4)

9. 手術件数

総手術件数(平均値4.81)	胸腔鏡下手術(平均値0.20)	脳外科的手術(平均値0.27)	心臓カテーテル(平均値0.87)	悪性腫瘍手術(平均値0.7)	小計
0.41	0	0	0	0	
0.28	0	1.30	0.65		
0.03	0	0	0		
0.32	0	0.96	0		
0.03	0	0	0		
1.75	1.35	1.45	1.00	2.	
0.63	0	0	0		
0	0	0	0		
1.38	0	0	0.50	0.	
1.65	0	0	0	0.70	2.35
3.42	0	1.15	1.18	1.99	7.74

手術件数をひと項目にまとめ入力。

[ポイント算出方法]

- ①レセプト報告数×12か月=A(年間推計)
- ②A÷総病床数=B
- ③Bが0または欠損値以外の病院数で偏差値化
- ④Bが0または欠損値の病院の偏差値を0とする

20

10. 救急医療の実施・重症患者への対応

- 年間データがないため、2014年6月診療分データに12を乗じた数字を年間推計値として算出。(レセプトデータ使用)

12. 救急医療の実施・重症患者への対応/年間推計														
人工心肺(平均値0.18)	大動脈バルーンポンピング法(平均値0.1)	経皮的心臓補助法(PCPS)(平均値0.08)	人工透析(平均値5.41)	夜間休日救急搬送医学生管理料(平均値0.65)	救命のための気管内挿管(平均値19.6)	救命のための気管内挿管(平均値0.19)	非開胸的マッジョ(平均値0.18)	カウターショック(平均値0.1)	中心静脈注射(平均値18.99)	呼吸心拍監視(平均値19.28)	観血的動脈圧測定(1時間を越えた場合)(平均値1.4)	ドレーン法、胸腔若しくは腹腔洗浄(平均値7.4)	人工呼吸(5時間を越えた場合)(平均値8.7)	小計
0	0	0	0	1.00	1.26	0	0.62	0	1.63	0.96	0	0.04	0	5.51
0	0	0	0	0.06	0.31	0.21	0	0	0.24	0.25	0	0.61	4.38	6.06
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.07	0.27	0	0	0	0.34
0	0	0	0	1.58	0.98	0.70	0	0	0.77	0	0.07	0	0	4.10
0	0	0	0	3.03	0.37	0	0.39	0	0.55	0.09	0	0.18	0.46	5.07
0	1.98	0.39	0.43	0	1.62	1.77	1.24	0.61	0.34	0.68	1.62	2.81	0.27	13.56
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.08	0	0.19	0	0.27
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	3.26	0	0.25	0.27	0.56	0.51	1.19	2.67	0.60	0.44	10.11
0	0	0	1.28	0	0.46	0.38	0.39	0	0.61	0.77	0	0.83	0.30	5.02
0	0.55	0	0.07	1.80	2.99	1.29	0.39	1.43	0.49	0.19	0.40	2.44	0.41	12.45
0	0	1.48	0	1.59	0	0	0	0	1.42	0.49	0	0.67	0.59	6.24
0	0	1.48	0.25	1.92	1.71	0	0	0	0.21	0.91	0	0.28	0.26	7.02
0	0	0	0	0.78	0.53	0	0	0	4.85	1.43	0	0.91	6.68	15.18
2.39	0	0.70	0.28	0.69	0	0	0	2.44	0.43	1.71	1.85	0.88	0.80	12.28

ポイント算出方法

- ①レセプト報告数 × 12か月 = A(年間推計)
- ②A ÷ 総病床数 = B
- ③Bが0または欠損値以外の病院数で偏差値化
- ④Bが0または欠損値の病院の偏差値を0とする

人工心肺(平均値0.18)	大動脈バルーンポンピング法(平均値0.1)	経皮的心臓補助法(PCPS)(平均値0.08)	人工透析(平均値5.41)	夜間休日救急搬送医学生管理料(平均値0.65)	救命のための気管内挿管(平均値19.6)	救命のための気管内挿管(平均値0.19)	非開胸的マッジョ(平均値0.18)	カウターショック(平均値0.1)	中心静脈注射(平均値18.99)	呼吸心拍監視(平均値19.28)	観血的動脈圧測定(1時間を越えた場合)(平均値1.4)	ドレーン法、胸腔若しくは腹腔洗浄(平均値7.4)	人工呼吸(5時間を越えた場合)(平均値8.7)
---------------	-----------------------	-------------------------	---------------	-------------------------	----------------------	----------------------	-------------------	------------------	------------------	------------------	-----------------------------	--------------------------	-------------------------

11. 疾患に応じたリハビリテーション・早期からのリハビリテーションの実施状況

- 年間データがないため、2014年6月診療分データに12を乗じた数字を年間推計値として算出。(レセプトデータ使用)

13. 早期からのリハビリテーションの実施状況/年間推計						
心大血管疾患等リハビリテーション料(平均値7.18)	脳血管疾患等リハビリテーション料(平均値54.1)	運動器リハビリテーション料(平均値45.79)	呼吸器リハビリテーション料(平均値6.64)	がん患者リハビリテーション料(平均値3.41)	早期リハビリテーション加算(平均値36.29)	小計
0	0.57	2.77	0	0	0.39	4.73
0	1.05	0.30	0.81	0	0.56	2.71
0	0.37	0.04	0.08	0	0.07	0.66
0	0	0	0	0	0	0
0	0.65	0.36	0	0	0.05	1.06
0.37	0.20	0.12	0.76	0.86	0.01	2.32
0	0	4.71	0	0	0	4.71
0	1.37	0.84	0	0	0.18	2.17
0	1.33	1.36	0	0	2.13	4.82
0	0.27	1.37	2.31	0	1.68	5.63
1.25	0.96	0.39	1.66	0	1.93	6.19
0	0	2.07	2.56	0	1.17	5.80
0	2.74	1.05	1.04	0	1.48	6.31
0	1.25	0.39	1.67	0	0.51	3.82

ポイント算出方法

- ①レセプト報告数 × 12か月 = A(年間推計)
- ②A ÷ 総病床数 = B
- ③Bが0または欠損値以外の病院数で偏差値化
- ④Bが0または欠損値の病院の偏差値を0とする

心大血管疾患等リハビリテーション料(平均値7.18)	脳血管疾患等リハビリテーション料(平均値54.1)	運動器リハビリテーション料(平均値45.79)	呼吸器リハビリテーション料(平均値6.64)	がん患者リハビリテーション料(平均値3.41)	早期リハビリテーション加算(平均値36.29)
----------------------------	---------------------------	-------------------------	------------------------	-------------------------	-------------------------

急性期指標の算出

- 各項目の小計ポイントを総合計して算出。
（見やすさのため、合計値を50で割る）